

令和5年度：地域包括支援センター瑞穂野 事業報告書

1、内 容

高齢者福祉の総合相談窓口の拠点となれるよう、周知活動に力を入れ、地域や各団体に出向くよう努めた。高齢者またはその家族に対し、その方に合った支援ができるよう、懇切丁寧な相談対応を心掛けた。

新型コロナウイルス感染症に関しては、個人または教室等で感染予防の指導等を行い感染拡大を防止した。地域の自主教室（サロン）は介護予防活動が継続できるよう支援した。福祉協力員、その他支援者のご尽力のおかげで今年度は9ヵ所すべて開催することができた。高齢者の居場所づくりをすると共に、地域力向上に目を向け、福祉協力員、民生委員、児童委員との連携に力を入れ活動した。

一般高齢者に対する支援は、介護予防を念頭に置き、健康維持ができるよう教室参加を勧奨し、要支援状態の支援では、状態が悪化せず自立した生活が継続できるような働きかけを行った。要介護状態の相談者に対しては、ケアマネージャーの後方支援を念頭に置きながら働きかけた。医療との連携については、でき得る限り病院に出向き医療関係者と顔の見える関係づくりに力を入れた。

2、地域との連携状況

地域住民の理解と協力のもと、関係機関との連携強化に努めた。

- ① 地域ケア会議の開催 介護サービス事業者等との勉強会等開催
- ② 介護予防（はつらつ）教室・げんき応援教室参加勧奨・家族介護教室の開催
- ③ 地域行事、関係団体の研修及び会議等への参加協力
- ④ 各自治会、民生委員、児童委員、福祉協力員、地区社会福祉協議会、警察関係者等との連携

3、はつらつ教室	2会場	開催数延べ20回	参加者実人数	27名
げんき応援教室	1会場	開催数10回	参加者実人数	7名

4、自主教室（サロン）及び健康教室	9会場	支援回数	60回
1会場参加者		約	6～30名

5、家族介護教室	開催数1回	参加者人数	12名
----------	-------	-------	-----

6、介護事業所及びケアマネージャーに対する研修会	開催数2回	延参加人数	63名
--------------------------	-------	-------	-----

7、その他の業務については別添のとおり

